

Exhibit 147

11532-1

近東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他對荒木貞夫其他ニ關スル供述書

私中井金兵衛ハ左記事項ノ眞實ナルコトヲ良心ニ
對シテ宣誓致シマス
私ハ過去十年間映畫事業ニ從事シテマイリマシタ。
現在ハ製作者トシテ日本「ニウス」映畫會社ニ（
昭和十五年）一九四〇年以前ヨリ就職シテヤマス。
映畫製作十ケ年間ニ陸海軍省並ニ情報局ノ注文ニ
應ジテ幾多ノ宣傳映畫ヲ製作シマシタ。（昭和十
四年）一九三九年「聖戰」ト稱スル映畫ヲ製作シ
マシタ、其レハ支那ノ無秩序、貧困、及ビ不安狀
態ト又新ノ如キ狀態ヲ救済スルハ日本ノ理ナル義
務デアルコトヲ描寫シタモノデアリマシタ。
滿洲事變後多數ノ宣傳映畫ガ製作サレマシタ。ソ
レハ滿洲ニ於ケル日本ノ立場ヲ正當化シ更ラニ爾
後ノ軍事侵略ニ對シテ日本國民ヲ準備シ實際生活、天
皇ノ神格化崇拜ヲ贊美シ、日本ノ文化、習慣ヲ他
ノ凡ベテノ國ヨリ優秀ナルモノトシテ描寫シ大亞
細亞ヲ窮極ニハ世界ヲ、支配スルノガ日本ノ神聖
ナル使命デアルトノ信念ヲ若若ノ心ニ植ヘツケル
様ニ仕組ンダモノデアリマシタ。滿洲事變後製作
サレタ此種ノ宣傳ノ代表的映畫二種ヲ上げレバ「

輝ク日本ト「非常時日本」テアル、之等ノ映画
ハ日本ノ全国ノ學校及ビ映画館テ上映サレマシタ
文部事變後ハ宣傳的性質映画ハ非常ニ盛ンニナリ
映画館ガ極端ナ國家主義的又ハ軍國的性質テナイ
日本ノ作品ヲ入手スル事ハ實質的ニ不可能トナツ
タ程デシタ。

（昭和十五年）一九四〇年十二月情報局成立以後
米國製映画ハ禁止サレ、日本ノ映画館ハ軍事的題
目ニ立脚シタ日本ノ作品シカ上映シマセンデシタ。

中 井 金 兵 衛

上記中井金兵衛ハ一九四六年（昭和二十一年）六月十五日追善會ビル内ニテ本官ノ面前ニテ宣誓ノ上本供述書ニ署名セリ。

證 明 書

予 ハ前ニ左ノ如ク證明ス。予ハ日英兩國語ニ通曉シ且本日前記供述書ヲ上記

ニ日本語ニテ讀ミ聞カセタリ。

之ヲ爲スニ當リ予ハ前記供述書ノ内容ヲ英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ翻譯セリ。右

ハ該供述書ノ内容が眞實ナル旨並該供述書ニ宣誓ノ上快ク署名スル旨述べタリ。右ハ予ノ面前ニテ正式ニ宣誓シ且供述書ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。

該宣誓ヲ爲シ且該供述書ニ署名スルニ就イテノ凡テノ手續ハ日本語ヨリ英語ニ、又英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ翻譯セラレ、右供述書ニヨリ充分理解且了解セラレタリ。

一九四六年（昭和廿一年） 月 日

日本國東京ニ於テ